

# 第 2 7 期 第 2 回

## 札幌市スポーツ推進審議会

### 会 議 録

(概要版)

日 時：平成30年9月21日（金）午後3時30分開会  
場 所：敷島北一条ビル 7階 会議室

## 1. 開 会

### 1.1 開会挨拶

### 1.2 配布資料確認

## 2. 議 題

### ○石澤会長

それでは、これから審議会を始めてまいりたいと思います。

議題に入らせていただく前に、前回と同様ではございますけれども、当審議会は、後日公開による議事録作成のために録音を行っておりますので、委員の皆様におかれましては、マイクを使ってご発言いただきますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、本日の議題に入らせていただきます。

まず、お手元の次第にありますとおり、議題といたしましては、前回に引き続き、札幌市スポーツ推進計画の中間見直しについてということで提示されております。事務局から説明をお願いします。

### ○事務局（砂村企画担当課長）

スポーツ局スポーツ部企画担当課長の砂村でございます。

私から審議会に付議をする案件につきましてご説明させていただきます。

お配りしました資料1のA3判の折り込んでいるものですが、札幌市スポーツ推進計画改定版の施策体系－目標（案）の検討をごらんください。

まず、左側に記載しておりますスポーツ参画人口の拡大、スポーツを通じた共生社会の実現、スポーツを通じた経済・地域の活性化、冬季オリンピック・パラリンピック招致の四つのキーワードは、第1回スポーツ推進審議会において札幌市を取り巻くスポーツ環境の変化やこれまでの取り組み状況、また、国が示した第2期スポーツ基本計画の内容を踏まえまして事務局側から提示させていただいた視点となっております。

第1回の審議会におきましては、これらの視点を参考にしつつ、今回の計画見直しによって根幹となります目標や方針について、委員の皆様にご意見を頂戴いたしましてキーワードをホワイトボードに抜き出す作業を行わせていただきました。

資料中央の小さい枠の中にたくさん文字が書いてある部分ですが、第1回審議会に出たキーワードで、それぞれ青、緑色、オレンジ色に色分けしております。これは第1回審議会ですとまとめたものですが、青のキーワードにつきましては個人、市民、緑色のキーワードは社会、札幌、オレンジ色のキーワードは世界、未来といったくくりでグループ分けをいただいております。

一部、キーワードのグループに異なる色が混在している部分がございます。例えば、上段の個人や市民のグループに振り分けているものに緑色のキーワードとして、安全なスポ

ーツ環境、サイクリング、冬季のスポーツがございませう。これは、第1回の審議会におきましては中段の社会、札幌のグループに振り分けていただいたキーワードでございませうが、個人や市民にも関連するキーワードと考えられるために双方に記載してございませう。

グループ分けをしましただキーワードにつきましては、それぞれ施策の方向性を意識しながら①、②のようにさらにこの中でグループ分けをしてございませう。

例えば、青の個人、市民のグループの①では、市民参加、高齢者・子ども、子どもの参加による親のスポーツ、スポーツができる働き方、誘い合いと働きかけという五つのキーワードから、市民のライフステージに応じたスポーツ活動の推進という方向性にまとめてございませう。

中段の緑色の社会や札幌のグループの①では、共生社会、心のバリアフリーと施設のバリアフリー、ユニバーサルデザイン、学校開放・地域の協力、多様なスポーツ、「する」楽しさ、きっかけづくり、スポーツを通じた交流という八つのキーワードから、スポーツを通じた共生社会の実現という方向性にまとめてございませう。

下段のオレンジ色の世界、未来、グローバルのグループの①では、オリパラ招致、ラグビーワールドカップ2019と東京2020から冬季オリパラへ、5年、10年を見据えた、国際的スポーツイベント、マラソンイコール観光といった五つのキーワードから、オリパラ招致活動、国際的スポーツイベントの開催を通じた都市ブランドの向上という方向性にまとめてございませう。

続きまして、右側ですが、キーワードから導き出される三つの目標案を記載してございませう。

まず、目標1の案でございませうが、市民をキーワードに、市民が地域で「する」「みる」「ささえる」といったさまざまな形でスポーツに関わり、心身の健康増進、生きがいに満ちた生き方を目指す、また、目標2の案は、「さっぽろ」をキーワードにスポーツの力によって社会の課題を解決したり、まちを活性化させたりすることで札幌を磨き上げていくことを目指すとしてございませう。また、目標3の案は、世界をキーワードに世界が憧れるまちを目指し、冬季オリパラ招致や国際大会の開催などを通じてウインタースポーツ拠点都市としてのブランドを高め、その魅力を世界に発信するとしてございませう。

さらに、一番右側には基本理念の案を示してございませう。

各目標から矢印が伸びてございませうけれども、これらの目標に向かっていくことで、黄色の四角で囲ってございませうとおり、さっぽろの「未来」をつくり、基本理念である「スポーツ元気都市さっぽろ」の実現を目指していくこととしてございませう。

続きまして、資料2のA4判縦のカラー刷りをござらんください。

こちらは、第1回審議会でのご意見を踏まえて作成しましただ施策体系の骨子案とお考えください。

現行計画におきまして、市民、地域、さっぽろの3目標のもと、6方針、左から目標(案)、方針(案)、施策(案)となつてございませうして、3目標が一番左、6方針がその次、15施

策を前の計画では定めておりました。これを改定（案）におきましては、市民、さっぽろ、世界という3目標に再編しまして、方針を7方針、15施策という形にしております。

また、一番右側には、それぞれ想定される事業展開を記載しております。計画前期における課題や第2期スポーツ基本計画の内容を踏まえまして、新たな内容や強化する内容を組み込んでおります。

目標1、方針1におきましては、ビジネスパーソンや子育て世代へのスポーツ参加への働きかけ、あるいは、目標2の方針4では、障がい者スポーツの振興などがメインとなる共生社会の実現、それから、目標2の方針5におきましては、さっぽろグローバルスポーツコミッションを中心としたスポーツツーリズムの取り組み、さらに、目標3の方針7では、オリパラ招致を見据え、札幌がウィンタースポーツの拠点都市として発展していくための取り組みなどが挙げられます。

これらの施策体系につきましては、なお検討の必要性があると考えられますことから、ご参考にしていただきまして、目標及び方針についてご意見を頂戴したいと思います。

私からの説明は以上です。

#### ○石澤会長

ありがとうございます。ただいまご説明いただきました案は、前回の審議会におきまして委員の皆様からいただいたご意見やキーワードを事務局にて整理しまとめたものとなります。中間見直しということもあり、これまでの計画体系を大きく変えるものではございませんが、基本理念のもとに三つの目標と七つの方針、そして、15の施策が関連づけられるつくりであると考えております。

それでは、ご説明いただいた内容を踏まえて、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

特に、A3判の資料の真ん中部分、第1回審議会での意見（キーワード）が前回の我々の議論で、それをたくさんの四角であらわしていただいております。それを踏まえ、右側の目標（案）ということで新たな目標1から目標3までの仮の目標、それから、その下にぶら下がる文言が出てきている状況になります。それを踏まえまして、A4判の三つの目標と七つの方針、そして、15の施策として再提示されているわけですが、忌憚ないご意見をいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

#### ○浅香委員

障がい者関係のことが目標2の9の欄の想定する事業展開に書いてあり、本当に私たちが念願とすることばかりで、すごくうれしいです。

二つ目の障がい者スポーツの拠点づくりは、私たちの団体やさまざまな団体が合致して、障がい者に特化したような体育施設をつくってほしいと、二十数年来、札幌市にお願いしているところなのですけれども、拠点づくりを文字にした札幌市としての構想があれば、

お聞かせいただきたいと感じております。

○事務局（寺島企画担当係長）

こちらで想定していますのは、今後の札幌市のスポーツ施策で検討している部分になりますが、具体的に申し上げますと、みなみの杜高等支援学校を拠点としまして障がい者スポーツクラブを開設したいと考えているところです。

恐らく、浅香委員がおっしゃっているのは、障がい者スポーツセンターというのが念頭にあるのかなと思いますが、そういったものも今後のスポーツ施設のあり方の中で検討しますが、ここではまずは障がい者スポーツクラブという位置づけでみなみの杜高等支援学校の活用を一番に考えているところです。

○石澤会長

具体的に何年後をめどにというのは明らかになっているのでしょうか。

○事務局（寺島企画担当係長）

障がい者スポーツクラブを開設するというのは、行うにしても札幌市の中で合意をとらなくては行けませんので、今、財政部門や企画部門とやりとりをしているところです。ですから、具体的に決まったということではないのですけれども、札幌市のスポーツ局のスタンスとしてそういった方向で行きたいということでここに書いております。

○石澤会長

みなみの杜高等支援学校は、開校して2年目に入るか入らないかぐらいで、まだ完成年度を迎えていない状況です。学校のスパンを考えると、一回り、1学年から3学年までそろって落ちついてからという形になるのが学校利用での民間利用、多目的の利用になると思いますが、そうなってくると、あと二、三年後ぐらいのスパンになってくるでしょうね。

○事務局（金谷企画事業課長）

今回のスポーツ推進計画自体が平成34年度までの計画となっておりますので、我々としてはこの計画期間内に実現したいということですが、先ほど申し上げましたように、財政的な面もありますので、今すぐに来年からということまでは言えませんが、一応、計画期間内には実現したいと考えております。

○石澤会長

ありがとうございました。

浅香委員、よろしいでしょうか。

○浅香委員

はい。

○石澤会長

長澤委員、どうぞ。

○長澤委員

ここ何年かのスポーツ事業の目標がきめ細かく書かれていますが、これは当初から大枠となっていますよね。すごくすばらしいと思いますが、最近の動きの中で気になっていること、それから、51競技団体の代表として札幌市体育協会、それぞれの競技団体からも出てきている意見の一つとして、最近、パワハラなどの問題が起こっています。各競技団体でももちろん注意を促しておりますし、文書も出しておりますけれども、選手あるいはコーチから競技団体に申しづらい雰囲気であれば、幾らコンプライアンス委員会をつくって文書をつくって配付していても実際は機能しないのではないだろうかという疑問があります。

ですから、ここにふさわしいかどうかわかりませんが、スポーツ部長もお見えなので、スポーツ局、あるいは、スポーツを統括している札幌市体育協会、さっぽろ健康スポーツ財団の三つが協力して、選手あるいはコーチのための訴えたりする場所、あるいは、ペナルティーを科すこともあるかもしれませんけれども、裁定の機関を札幌市、特にスポーツ局が中心になって組み出していけないかという気がしています。

○事務局（山田スポーツ部長）

ありがとうございます。直接的に今の施策体系にその要素は入っていません。ただ、重要なこととおっしゃられたと思っています。私どもは、日ごろからスポーツ行政に関わりのある団体、札幌市体育協会とさっぽろ健康スポーツ財団などと密接に仕事をさせてもらってしまして、やはり、行政と札幌協と健スポ財団の連携をもっと結びつけて、そういう要素も含めたスポーツ振興を、ソフト・ハード面を含めて充実していかなければいけないと思っております。

そういう話も事務レベルでは日ごろからしてはいますが、それをここに具体的に記載するとなるとなかなか難しく、色合いの違うものではあるのですが、十分今おっしゃったことは踏まえているつもりです。

○長澤委員

札幌協の競技団体の中でももちろんできるのですけれども、効果が薄いですね。やっぱり札幌市にも入ってきてもらって、三位一体で構築していくことが重要ではないかと思えます。ぜひよろしく願います。

○石澤会長

ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。

○堀田委員

先日、ホワイトボードに載せた部分がまとめられていて、札幌もスポーツで活性化していけばいいなと思うところですが、市民や札幌市を通じてスポーツを活性化するというのは簡単なことではないと思うのです。

例えば、ここに楽しむための機会を提供したり、施設を普及、促進したり、そういうところでマスコミや広告、それに向けた講演会など今までとは違うやり方、推進の仕方です。市民への浸透が大分変わってくると思うのです。

ですから、目標だけではなく、それを盛り上げるようなやり方、裏の力持ちというか、そういう計画も必要かと考えました。

○石澤会長

確かに、先ほどのスポーツ界におけるさまざまな問題もそうなのですが、如実に人口減少社会が顕著化してきていますので、堀田委員がおっしゃったように、具体的な方策を示した後、何が具体的なものとして形になるのだろうかということにつながっていくような議論を現場レベルでやっていく必要があると思いますし、現場レベルで議論するための一つの指針になるのが、今回の我々がつくっている改定版になると思いますので、ぜひ決まった暁には、よりそれを実現できるような具体的な方策、それがオリパラだけではなくて札幌ならではのものが出てくればいいと思います。その中には、長澤委員がおっしゃったようなハラスメント関係や、学校の部活動も、学校で賄い切れないということで、どんどん外部に役割をお願いしたいという流れもあります。そういうことで、一つの札幌モデルみたいなものができれば非常に魅力的という気がしております。

ほかにいかがでしょうか。

○浅香委員

余り専門的ではないですが、この中身を見ると、これからバラ色のスポーツ札幌になるのではないかと思います。長澤委員がおっしゃったように、今はハラスメント系がかなりにぎわっているところです。スポーツに対する倫理観の向上というか、どちらかというところの内容はポジティブなものが多いですけれども、小さいうちから反ドーピングの関係などを学習することも必要だと思います。そういうことは岩崎委員が詳しいのではないかと思います。プロスポーツは特に大変だと思います。どこかにその項目があってもいいのではないかと感じていました。

○事務局（寺島企画担当係長）

先ほど、パワハラの話やドーピングの話がありましたけれども、今回、国の計画でも重視すると打ち出されていて、その中では国が主体となって取り組むものという書き方をしていましたので、前回の審議会では、国がメインで、我々は一步引いているという言い方をしたのですが、確かに、現場で必要があるということであれば、当然、自治体として取り組めないものではありませんから、今いただいた意見を参考にさせていただきながら、施策体系に入れられる部分は入れていくようにしたいと思います。

○石澤会長

部活に関しては、休養日を設けるなどの指針が国からおりてきておりますので、それに準じて都道府県で詳細レベルで対応という形になると思いますが、近い将来、ハラスメント的なものもおりてくることも予想されますので、それを踏まえ、札幌市で何ができるのだろうかという議論が深まっていくことも考えられると思います。

大体出尽くしたと思いますが、ほかによろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○石澤会長

それでは、ただいまご議論いただきました内容を十分に加味いただきながら、事務局におきましては、スポーツ推進計画改定版の後半部分となります計画後期に向けた事業展開について素案を作成いただきまして、次回までに全体の素案をご提示いただきたいと思いますと思いますが、皆様、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○石澤会長

続きまして、もう一枚の資料ですが、成果指標・目標値の見直しについて、事務局からご説明いただきたいと思います。

○事務局（砂村企画担当課長）

それでは引き続きましてご説明させていただきます。

資料3のA4判縦の白黒の左肩に成果指標・目標値の見直しについて（案）と書いているものでございます。

一番上にある表につきましては、現行計画における成果指標と現状の値、また、目標値でございます。現行計画では、目標ごとにそれぞれ成果指標を設定しております。

目標1、市民が元気にでは、スポーツ実施率、ウインタースポーツ実施率、目標2、地域が元気にでは、各区で実施するスポーツイベントの参加者数、目標3、札幌が元気にでは、計画期間中に新たに開催する大規模な全国大会や国際大会の大会数を成果指標として設定しております。

その下にあります表は、成果指標の変更案でございます。

変更案では、目標ごとに成果指標を設定するのではなく、全目標の共通で四つの成果指標を案として設定しております。これは、成果指標が必ずしも一つの目標のみに関連するものではないというふうを考えられるためです。また、表の下に文字がございますが、それぞれの成果指標について補足説明を記載させていただいております。

1のスポーツ実施率につきましては、現状値は56.4%で当初より上昇しております。ただ、目標値は達成しておりませんので、国や他都市と同様に、引き続き目標値65%の達成を目指したいと考えております。

次に、2のウインタースポーツ実施率につきましては、ウインタースポーツを振興し、冬季オリパラ招致を目指す札幌市におきましては大事な指標でございますけれども、ウインタースポーツ自体がスキーやスケートなど一般的には競技性が高い、急な体の動きを要するスポーツが多く、高齢者の方々にとりましては、実施することがそもそも困難というケースがあることなどがアンケート結果から判明しております。そういった点を踏まえまして、今後は、必ずしも健康という視点より、ウインタースポーツ文化の継承という視点での指標として位置づけさせていただきまして、30代までの若い世代、あるいは、小学生のお子さんをお持ちになる親世代、これは40代ぐらいの範囲かというところですが、こちらを調査対象年齢としまして、従来の成人全てから18歳から49歳までに変更させていただきたいと考えております。

3の新たな指標でございますが、今後、力を入れていく障がい者スポーツの指標として、障がい者のスポーツ実施率、それから、スポーツによる経済や地域の活性化を示す指標としまして、計画後期に向けてスポーツツーリズムの取り組みを強化することも踏まえ、スポーツ目的の来札外国人観光客数を新たに取り入れたいと考えております。

4のその他の成果指標については、現行計画で成果指標としておりました各区のスポーツイベント参加者数につきましては、平成29年度は、表の目標2に記載しているとおり、現状値として3万5,000人程度にとどまっておりますが、実は、前回ご説明しましたとおり、28年度は5万人という目標を一度達成しております。また、本指標におきましては、地域が自主的に開催したスポーツイベントの参加者数が含まれておりませんので、地域のスポーツの状況を見る指標として必ずしも十分とはいえない部分もございますことから、今回の見直しを機に成果指標としてはここから外したいと考えております。

また、同じく現行計画で成果指標としておりました大規模な全国大会や国際大会の開催数につきましては、目標の達成が確実でございますことから、今回の見直しをもちまして成果指標から外したいと考えております。

以上、成果指標、目標値の見直しに関する説明でございます。

ご審議のほど、よろしく願いいたします。

○石澤会長

資料3についてご説明いただきました。

今回の見直し案といたしましては、まず、スポーツ実施率は引き続き成果指標として維持するというのが一つ目のポイントだと思います。二つ目、ウインタースポーツ実施率は、健康の視点ではなく、ウインタースポーツ文化の継承という視点での指標と位置づけ、調査対象年齢を変更するように持っていきたいということです。そして、新たな指標といたしまして、障がい者のスポーツ実施率とスポーツ目的の来札外国人観光客数を追加するという内容が示されております。

それでは、資料3につきまして、委員の皆様方からご意見を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

#### ○川口委員

外国人がスポーツ目的で来ているというのがいまいわからないのです。例えば、スキーなのでしょいか。今、大会や何かがある部分は抜かすと言っていましたけれども、来道する人数が設定してあるのですけれども、この人数はどの競技や部門で言っているのかわからないので、説明をお願いします。

#### ○事務局（寺島企画担当係長）

スポーツ目的の来札外国人観光客数は、表の下に小さく米印をつけておりますが、外国人がどれだけ市内に宿泊しているかというのは観光部門でホテル、旅館から毎月データを集めています。ですから、札幌に来た外国人がどれほど宿泊しているのかというのはもともと押さえている情報です。

また、観光部門では、インバウンドの集客に力を入れているのもありまして、現在、新千歳空港で札幌に寄ったという外国人にアンケート調査を行っており、何を目的に札幌に寄ったのかという設問に対して、スポーツを選択肢に入れています。そのスポーツには、実際にするものもありますし、観戦も含まれます。ですから、今後、ラグビーのワールドカップがあればラグビー観戦もあるでしょうし、冬はスキーをしに来るということもあるでしょうし、見るにしても、するにしても、スポーツということで来た方の選択率を出して、その選択率と実際に札幌に泊まった外国人の数を掛け合わせることによって、理論値という形になりますけれども設定しております。

#### ○川口委員

ありがとうございました。わかりました。

#### ○岩崎委員

私が資料3を事前にもらったときに拝見させられて、川口委員からもお話がありましたが、新規で成果指標として掲げられたスポーツ目的の来札外国人観光客数を成果指標に新たに取上げたというのは、非常に斬新で魅力的な評価の仕方だと思います。

今ご説明があったように、来札外国人宿泊者数に動態調査における札幌に来た目的のうちスポーツ（観戦を含む）の選択率を乗じて算出というところですが、私たち北海道コンサドーレ札幌としても、例えば、タイのチャナティップという選手を昨年獲得したのですが、Jリーグの試合を行うとタイからの観光客が実際に試合を見に来ているという状況がものすごく増えました。

僕たちコンサドーレとしても、スポーツばかりではなく、コンサドーレを通して札幌、北海道を世界にPRできる存在に今後なりたいと思っているので、ここに貢献できるようにコンサドーレも頑張らなければと思っています。

お伺いしたいことは、スポーツ観戦の選択率というのは大体何%ぐらいあるのですか。

○事務局（寺島企画担当係長）

直近のもので8%です。

○岩崎委員

やはり、観光でしょうか。

○事務局（寺島企画担当係長）

観光か、観光以外かという分けがないので、そこはわかりません。

これは、年間を通じて8%なのですが、月別で見ると冬が多いです。ということは、やはり、スキー目的が多いのではないかと考えております。その中には、ニセコに行っている人もいます。ここでは札幌で何をしたかということを知っているのですが、結局、何をするかというと、ウインタースポーツが多いのかと思います。

○岩崎委員

ありがとうございます。

○石澤会長

大学でスキー実習をやっておりまして、札幌国際スキー場を使っているのですが、中国からのお客様がかなり多いのです。ただ、観光の一環でスポーツをするという感覚で来ているので、まずウェアは持ってきていないのです。ジーンズで滑っていらっしゃるのです。

○川口委員

ツアーに組まれているのですね。

○石澤会長

違います。やりたいということなんです。

レンタルはあえて借りず、ジープにダウンコートを着て、札幌国際の中腹ぐらいまで上がっていく方が結構いらっしゃいます。そして、おりられなくなると。そのような方が非常に多いのです。

それは認識が違うのか、きれいな雪とかパウダースノーを体験したいということでスキー場に上っていくのですけれども、ある程度の力量がなければおりてこられないという知識はお持ちでないようです。

南区の札幌国際スキー場にも相当数いらっしゃるので、ニセコとか倶知安ではなくても札幌にスキーをしに来られる、特にアジア圏の方が非常に増えてきているという印象があります。

実際に、札幌国際スキー場に聞いてみても、そういう方がかなりの数いらっしゃいます。レンタルとかスキーを借りてくれる方はまだいいのですが、お金がかかるので、ブーツと板とストックの3点セットだけを借りて上がっていかれて、おりられなくて困ったなという事例がたくさんあると報告されているようです。少なからず、観光の中でウィンタースポーツを体験される方がいらっしゃるといことは、そういうところからも明らかです。大きな事故につながらなければいいのですけれども、もしかしたら、そういったこともあり得るということです。

あとは、バックカントリースキーということで、コース外にどんどん入って行かれる特に南半球の方々も、倶知安やニセコに行かなくても、札幌国際スキー場あたりでも結構出ているという状況があります。

ほかによろしいでしょうか。

#### ○長澤委員

見えない数字だと思いますが、中島公園の中の歩くスキーがありますね、あそこにも中国人がたくさんいるのですよね。聞くと、ホテルで斡旋してくれるらしいのです。ですから、ホテルに協力をお願いするというのも一つの手かもしれないですね。

#### ○事務局（寺島企画担当係長）

長澤委員がおっしゃるように、行政だけではなくて、観光であれば当然宿泊業界とも連携しながら、我々もスポーツ部門ですけれども、観光部門とも連携をとりながらやっていく必要があると思います。

#### ○石澤会長

スポーツツーリズムという言葉も一般的になってきていますので、コラボレーションとか、垣根を超えた情報提供が必要になってくると思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

私から1点確認ですが、終了してしまう全国大会や国際大会の数が10大会ということ

ですけれども、台風と地震の影響で残念ながらスポーツマスターズが中止になってしまいました。それでも10という数はクリアできるという見通しでよろしいですか。

○事務局（砂村企画担当課長）

今のところ、おっしゃるようにスポーツマスターズも実施できていれば9大会目というカウントになる見込みでございましたけれども、もっと大きな大会として、来年度、まず一つは、ラグビーワールドカップが札幌で開催されます。それから、2020年の東京オリンピック・パラリンピックのサッカー競技が札幌で行われます。したがって、確実にクリアできるというふうに考えております。

また、最近決まったばかりですけれども、IPCワールドカップという障がい者のスキーの大会が行われます。これも含めると12大会が行われることになる予定でございます。

○石澤会長

ありがとうございました。

ほかによろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○石澤会長

それでは、資料3につきましては、事務局におきまして、今の審議の内容を踏まえまして成果指標の修正、設定を行っていただくことをお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○石澤会長

続きまして、札幌市スポーツ推進計画改定版の素案につきまして、事務局からご説明をお願いしたいと思います。

○事務局（砂村企画担当課長）

引き続きまして、説明させていただきます。

資料4のホチキスどめの冊子をごらんください。

第1回スポーツ推進審議会におきまして、委員の皆様にお示しいたしました計画の見直しに当たっての背景、あるいは、これまでの取り組み状況を素案の形にさせていただいたものです。ただ、ごらんのとおり、時間に限りがある中で、これだけのものをこの場で説明するのはなかなか難しい部分がございます。詳細な説明につきましては割愛させていただきますので、ご了承ください。

1枚おめくりいただきまして、この場では目次を使いまして計画の構成についてご説明させていただきます。

左側にはスポーツの定義ということで新たに加えてございますが、右側が目次でございます。

第1章でございますが、推進計画の策定としております。

1の札幌市スポーツ推進計画の策定の背景から始まり、今回、計画内容の見直しを行う必要性や計画の位置づけなどにつきまして記載しております。この章については、基本的に現行のスポーツ推進計画の内容を踏襲しております。

続いて、第2章の推進計画の見直しに当たってでございますが、今回、見直しを行うに当たり考慮しましたスポーツ庁の発足といった国の動向や札幌市が冬季オリンピック・パラリンピックの招致を表明したことなどの札幌市を取り巻くスポーツ環境の変化につきまして記載しておりますほか、超高齢社会の到来についても触れております。

次に、第3章のスポーツを取り巻く現状と課題におきましては、計画前期における成果指標の状況を第1回審議会で報告した内容をもう少し詳細な形で分析しております。また、三つの目標ごとに、これまでの主な取り組み状況について記載しまして、それぞれの課題を抽出しております。

また、第2期スポーツ基本計画から札幌市が取り入れようとする視点をキーワードとしまして、スポーツ参画人口の拡大、スポーツを通じた共生社会の実現、スポーツを通じた経済・地域の活性化の三つを挙げております。

また、最後に、計画前期における課題をまとめておまして、後期に向けた方向性について記載していく構成となっております。

以上が第1章から第3章までの構成になります。記載内容につきまして、説明が雑駁で恐縮でございますが、ご質問やご意見などがございましたら、よろしくお願いたします。

○石澤会長

それでは、第1章から第3章の目次部分につきましてご説明いただきましたけれども、この時点で何かご質問のある方はいらっしゃいますか。

(「なし」と発言する者あり)

○石澤会長

それでは、事務局はこれまでの流れも踏まえながら、もし修正がありましたら適宜修正を行いまして改定版の前半部分とあわせて次回までに改定案としてご提示いただきたいと思いますと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○石澤会長

それでは、全体を通しましてご意見やご質問等がありましたらお受けしたいと思いますと思いますが、よろしいでしょうか。

前の部分に立ち戻っていただいても構いませんので、本日も行ってきました議論につきまして、確認やご意見があればいただきたいと思います。

○堀田委員

先ほどIPCワールドカップとありましたが、いつの開催になりますか。

○事務局（砂村企画担当課長）

今の予定では、来年3月の予定でございます。

○石澤会長

会場はどの辺の予定ですか。

○事務局（金谷企画事業課長）

西岡のバイアスロンの競技場です。

○石澤会長

ノルディック系の種目ということなのですね。

○事務局（金谷企画事業課長）

IPCノルディックスキーの大会です。

○石澤会長

わかりました。ほかにいかがでしょうか。

○事務局（砂村企画担当課長）

補足させていただきますが、計画上、新たな大会という言い方で定義しております。実は、IPCの大会というのは、ご存じかと思いますが、去年の3月にもアジア大会の後に一度実施しているものですから、明確に言うとカウントしていいのかというのがあります。先ほども最後に申し上げたのですが、いずれにしても先ほどの10大会に関しては2019のラグビー、2020のオリンピックでクリアします。

冬季国体もありますが、新しいのかと言われると微妙なところがございますが、いずれにしても10大会は達成する見込みです。ただ、IPCについては、そのようなところでございます。

○石澤会長

国体も次年度という形になるのですか。

○事務局（砂村企画担当課長）

今年度です。

○石澤会長

では、今シーズンの冬ということになりますね。

○事務局（砂村企画担当課長）

それもカウントということになると、来年の2月に予定されております。釧路と同時開催ですね。

○石澤会長

ありがとうございます。

それ以外で、よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○石澤会長

それでは、これ以上ご意見がないようでしたら、議題につきましては以上で終了したいと思います。

ありがとうございました。

3. 閉 会

以 上